

記念学習講演

## アメリカ公文書から迫る原発と核兵器推進体制の闇 ：ABCCと核開発



講師 高橋博子さん

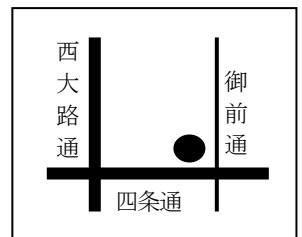
名古屋大学大学院法学研究科研究員

■日時 2018年4月22日(日)  
14:30~16:30

■会場 ラボール京都(京都労働者総合会館)  
4階 第1会議室

《高橋博子さんプロフィール》

名古屋大学大学院法学研究科研究員。アメリカ史専攻。1969年生まれ。広島市立大学広島平和研究所講師、明治学院大学国際平和研究所研究員などを経て現在に至る。博士号(同志社大学・文化史)。日本平和学会理事。広島平和記念資料館資料調査研究会委員、第五福竜丸平和協会専門委員。第2回日本平和学会平和研究奨励賞を受賞。単著『封印されたヒロシマ・ナガサキ—米核実験と民間防衛計画』(凱風社、2012年)、共著『核の戦後史—Q&Aで学ぶ原爆・原発・被ばくの真実』(創元社、2016年)など。



(中京区・四条通御前)

■参加費 無料

### なぜ「核兵器のない世界」は実現されないのか？ なぜ放射能の人的被害は軽視されるのか？

▼その謎を解く鍵は、原爆と原発をめぐる「核の戦後史」を遡る中で明らかになります。世界で最初に原爆を開発したアメリカは、広島、長崎の後にも数多くの核実験を繰り返してきました。しかし、日米政府は放射能による人的被害を巧妙に隠ぺいしてきました。高橋博さんは、アメリカ公文書館に通いつめ、核開発に関わる膨大な機密解除文書から原発と核兵器推進体制の闇に迫ってきた研究者です。

▼調査された文書の中には、ABCC(原爆傷害調査委員会)の実態に迫るものもあり、「ABCCによって、2万件以上にもなる死産児、新生児の検体を含む標本とデータがアメリカに送られていた」事実も明らかにされています。「死産児、新生児」とは被爆二世のことです。そこには私たちの運動の原点である放射能の遺伝的影響、世代を超えた影響について、重要な情報が隠されている可能性もあります。

▼高橋さんはまた、公開された機密文書からヒントを得て、福島第一原発事故で放出されたストロンチウム90(ベータ線)の体内蓄積を知るために乳歯の保存も提案されてきました。

▼真実を知り、私たちのこれからのとりくみを考え合う機会にしていきたいと思います。

■当日は同会場で13時30分から京都「被爆2世・3世の会」年次総会も開催します。会員外の方の参加も自由です。お時間のある方はこちらにも是非ご参加下さい。